

特集

冒険心を 育むまち

公設から民設のものまで、町田市内にある公園の面積は約476万平方メートル（東京都建設局調べ）。東京都の全市区町村で八王子市に次いで2番目に広く、谷戸池や雑木林など自然の地形を生かした公園もある。こうした環境で泥遊びや基地づくりを楽しめる「冒険遊び場」は、常設型から定期開催型まで計7カ所。外遊びに絶好のフィールドが整っている。

やわらかく差し込む木漏れ日、ふかふかとした落ち葉のじゅうたん、ときおりカサカサと音を立てながら落ちてくるどんぐり。まだ足もとがおぼつかない子ども達がきやつきやと上手に斜面を駆け下り、ママはかまどで火起こし。昼時ともなれば、雑木林にはおいしいそうな匂いが漂い始める――。

これは、「せりぼう」の愛称で親しまれる芹ヶ谷公園内の「せりがや冒険遊び場」で、日常的に繰り広げられている光景。午前は乳幼児連れの親子、午後は小学生が多く集い、ショッピングビルが林立する町田駅から徒歩15分とは思えない豊かな自然のなか、自由気ままな時間を過ごしている。

「冒険遊び場」とは、公園などの一部を利用して開催される活動の場。最多の東京都をはじめとして全国300カ所以上に設置されており、それぞれNPO法人やボランティア団体などが運営を担う。モットーは「自分の責任で自由に遊ぶ」。場所によって規模や環境は異なるが、基本的に既製の遊具はなく、穴を掘ったり、木に登ったり、のこぎりで工作をしたり、遊びを通じて自発性や主体性を育むこ

とを重視した場だ。せりぼうのオープンは2014年。昨年度は250日間開園し、延べ3万3000人以上が訪れた。かまどでの料理やミュージシャンを招いたライブなど、若者男女が楽しめるイベントが企画される週末は特ににぎわいをみせる。常駐するプレリーダーと呼ばれる大人たちは、見守り役とはいえほとんど口出しはしない。少くくらのケガやケンカは、子ども達の心身の成長に大切な機会と考えるからだ。「放っておいてもちゃんと遊びのルールをつくるし、ケンカも気が済むまでやれば仲直りする。子どもって本当にたくましいですよ」

そう話す代表の大野浩子さんも、かつて自身の子育てに悩んでいたことがある。そんな時に紹介されて訪れたのが、冒険遊び場だった。「禁止事項だらけできょうくつな公園と違い、ここでは自由な発想でのびのびと遊ばせることができる」。だからこそ子どもの個性も引き出され、生きる力が育まれると感じた。気温も、日没時間も、同じ日は一日としてない。そんな変化を肌で感じることもできるのも、外遊びの魅力だ。

せりがや冒険遊び場(芹ヶ谷公園内)
開催日▶ 毎週水・木・金・土・日
時間▶ 午前10時～午後5時30分(3月～9月)
午前10時～午後4時30分(10月～2月)

「せりがや冒険遊び場」を訪れた南第四小学校の1年生。生活科見学で利用する学校も多い